

第三者評価結果 公表シート

(このシートに書かれている内容は、そのまま富山県福祉情報システムにおいて公表されます。)

事業所名	富山市立月岡保育所
第三者評価機関名	富山県社会福祉協議会
評価実施期間	令和 元年 5月 20日(契約日)～ 令和 2年 3月 10日(評価結果確定日)
過去受審回数 (前回の受審時期)	回 (平成 年度)

1. 概評

◇ 特に評価の高い点

【テーマ「げんきいっぱい、にこにこスマイル」の実践】

月岡保育所では、毎年度 5 歳児が年間活動テーマを考案する。今年度のテーマの「げんきいっぱい、にこにこスマイル」を周知する方法として、考案した子どもたちで動植物の作品と共に掲示できる作品を仕上げ、玄関ホールに掲示し目を引いている。保育現場でも子どもたちの元気な笑顔を引き出すよう、運動会や発表会は担任がシナリオを提案するという一般的な形式に囚われず、子どもたちの興味や主体性を尊重してテーマを決めたり、作り上げる過程を一緒に調べたり実践している内容を保育室の扉に紹介して保護者に伝えるなどの工夫が見られる。子どもたちのいきいきとした元気な活動の様子や笑顔で明るい挨拶から、年間テーマの実践が感じられる。

【視覚からの情報活用・共有に取り組む業務改善】

令和元年度目標にもある、「子どもが元気で、毎日楽しいと思える保育所作り」は、子どもに限らず、職員や保護者も共有のテーマとなるよう願いが込められている。そのため、働きやすい仕事内容への改善として、各々が取り組むテーマや改善課題を可視化し、その経過を細目に情報として発信・周知し、協力できる仕組みを取り入れている。「散歩マップ」にも、職員のヒヤリとした発見が記載し紹介されているが、保護者にも気づきを付箋で付け加えてもらえるよう働きかけ、一体となって子どもを育み、楽しい保育所作りに取り組む姿勢が伝わってくる。

◇ 改善を求められる点

【積極的な地域・保護者のニーズ把握と情報の発信】

歴史が長い月岡保育所には、老朽化による耐震への不安、保育所建て替えや園庭への新遊戯室移設、駐車場の確保など、地域及び保護者からのニーズが多いことが、利用者アンケートから伺える。保育所自らが、保育環境及び運営全般についてのアンケートを計画的に実施するなどして、その結果についても必要な機関と検討を行い、中・長期や単年度計画などへの立案を検討すること、そして、回答できる内容は説明や周知に取り組み、改善についての意見なども建設的に求め、共にニーズを理解し解決に導けるような取り組みに期待したい。

【地域及び保護者ニーズが反映した中・長期計画書の再策定】

平成 29 年から令和元年度の期間について、初めての中・長期計画が策定し実施されて来た。その期間にも、平成 30 年 7 月、令和元年 5 月に保育所運営に準じて一部事項の改訂が行われている。令和 2 年度を始期とする第 2 期富山市子ども・子育て支援事業計画策定に伴い、令和 2 年度の月岡保育所中・長期計画書策定に向けた見直しや検討をしていると思われるが、その際、保育所自らが保育環境及び運営全般について地域や保護者から把握したニーズについても検討し、その課題解決に向け、見直し期間を含めた内容を組み込めるように計画を策定し、保護者や地域へ説明と周知をすることで、保育事業に対する理解や関心が高まることを望みたい。

3. 各評価項目にかかる第三者評価結果(別紙)

4. 第三者評価結果に対する事業者のコメント

月岡保育所では毎年度年長児が年間活動テーマを決め保育活動を行っています。今回、第三者評価の受審を機会に、子どもの思いを実現していく上で必要な、保育者集団としてのチームワークや、より質の高い保育の在り方を学ぶ良い機会となりました。職員全員が保育理念や目標について話し合い、自己評価により自分たちの行ってきた保育を見直し、共通理解を深めるための見える化を工夫し、実践と評価・反省を行ってきたことが、子ども達の成長につながっていると実感しています。そのことが評価結果において、高く評価していただいたことはとても嬉しく、今後の励みとなりました。

保護者アンケートでは、貴重なご意見をたくさんいただき、地域や保護者の皆様のニーズを知ることができました。指導事項は真摯に受け止め、改善に向け一つ一つ取り組んでまいります。今後も子ども達の思いに寄り添い、子ども・保護者・地域がつながりあう、より良い保育の実現に向け努めてまいります。

最後に、今回の第三者評価受審に際し、ご尽力いただいた評価機関の皆様、利用者アンケートにご協力いただいた保護者の皆様に心より感謝申し上げます。

第三者評価結果

※すべての評価細目（65項目）について、判断基準（a・b・cの3段階）に基づいた評価結果を表示する。

※評価細目毎に第三者評価機関の判定理由等のコメントを記述する。

評価対象Ⅰ 福祉サービスの基本方針と組織

I-1 理念・基本方針

		第三者評価結果
I-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		
1	I-1-(1)-① 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>富山市基本理念に基づき、保育所理念が掲げられている。保育理念や保育方針、目標について保護者へは、説明会や総会の機会に変更などの理由を踏まえ丁寧な説明が行われている。地域に向けては、「教育後援会・社会福祉協議会合同懇談会」へ所長が出席し、活動報告や現状と課題などについて説明と懇談が実施されている。年長児自らが考える保育テーマについては、玄関ホールに子どもたちが手掛けた作品で常設掲示されており、保育所だよりやクラスだよりにも常時掲載し、年間を通じ発信する姿勢が伺える。今後は、保育方針や保育目標について重要事項説明書とホームページの表記内容との整合性に配慮し、広く周知すると共に保育への信頼をより高める取り組みにも期待したい。</p>		

I-2 経営状況の把握

		第三者評価結果
I-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		
2	I-2-(1)-① 事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>富山市では、「質の高い幼児期の教育・保育の総合的な提供」と「地域の子ども・子育て支援の充実」のための方向づけと方策を提示するため、子ども・子育て支援法に基づき「富山市子ども・子育て支援事業計画」を策定し、その中に分析及び取り組み、方策が示されている。在籍者の校区や核家族なども把握し、数値化して地域へも紹介している。また、老朽化や駐車スペースを心配する声も多く寄せられている現状については富山市との情報共有に努めており、今後も地域福祉計画や保育に求められるニーズ等の把握と掘り起こしに期待したい。</p>		
3	I-2-(1)-② 経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	a・ b ・c
<p><コメント></p>		

公営のため設置主体である富山市において、基準を満たした人員配置と利用者の決定が行われている。毎年、保育所要覧の調査協力を行い、組織体制や利用及び待機児童状況、人材育成や勤務状況（超過勤務含む）、財務状況等の動向を把握するよう努めている。

また、保育環境を地域性に基づいて検討し、保育所の建て替えにあたっての代替地などの情報も地域関係者と共に把握するよう働きかけを続けている。地域及び保護者などからの安全性を踏まえた建て替えのニーズは高まり、富山市にも予算を含めた現状や計画について提起するよう働きかけている。

I-3 事業計画の策定

		第三者評価結果
I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		
4	I-3-(1)-① 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>中長期経営計画書は、平成29年6月に当初の計画が「保育運営」、「人材育成」、「危機・安全管理」、「地域の保育所」の項目に沿って策定されている。平成30年7月、令和元年5月に一部事項について改訂が行われている。内容については職員間で見直されているが、その内容が時期は計画書へ明記されているが、策定や改訂についての参加者や検討内容について時系列で分かるよう議事録の作成と保管についての取り組みに期待したい。</p>		
5	I-3-(1)-② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>令和元年度事業計画書は、年度初めに今年度取り組みたいことや職員間で周知すべきことを踏まえ策定し、さらに「保育内容」、「保育運営」、「人材育成」、「危機・安全管理、交通安全」、「安全な給食」、「地域関係」の大きく6つの項目に分け、具体的な施策を年間計画表に落とし込み、実施時期が明確にされている。しかし、中・長期計画のどの部分について展開されているのか、反映や整合性についてさらに検討し、加えて検討内容や策定のプロセスが記録として継続的に保管されることが望ましい。</p>		
I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。		
6	I-3-(2)-① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>計画内容の進捗状況や実施内容については随時、職員会議で検討されているが、評価の時期や評価形態などについては十分とは言い難く、中・長期計画においても、年度ごとに改訂されているが、新たな項目についても期間が定められていない。今後は、評価についてそのプロセスと内容を検討され、職員に周知し、評価結果が次年度計画へと反映されるしくみの整備に期待したい。</p>		
7	I-3-(2)-② 事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。	a・ b ・c
<p><コメント></p>		

計画書には6つの単年度目標が示されている。しかし、その内容が計画書における「具体的な施策」6項目との連動性や展開として理解が難しい点が伺える。今後は単年度目標と具体的な施策について整合性を図り、内容や意図について保護者などにも理解と周知が図られることで、事業に対する支援や参加がより広がることに期待したい。

I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組

		第三者評価結果
I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		
8	I-4-(1)-① 保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>今年度第三者評価受審を計画し、実践される取り組み内容と結果についてのスケジュールを年間計画表に示し、職員が忙しい中でも実施時期や期間を明確にすることで、実践できる計画となるような工夫が見られる。5月及び9月に共通項目と内容評価項目についての自己評価を実施している。その結果から、現在進んでいる取り組み内容や実施状況内容が共有できることで連携が図られることから、事務室から休憩室に入る扉に計画の進捗状況を担当者が記載し、共有しながら計画を進めている。</p>		
9	I-4-(1)-② 評価結果にもとづき保育所として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>評価結果から課題となる強みや弱みについて書面で表し、職員会議などで改善内容を導いている。課題については、今年度は『自園研究』として捉え、「保健衛生」、「リスクマネジメント」、「災害対応・交通安全」、「食育」、「環境」、「個別配慮」のテーマを決め、年間計画に基づく研修の実施と、毎月ねらいと活動内容をボードに記入し実践状況を共有できるよう取り組んでいる。保育所評価と見直しサイクルが継続して実施することで、恒常的な取り組みとして定着し、質の向上に向けた体制が機能していくことに期待したい。</p>		

評価対象Ⅱ 組織の運営管理

Ⅱ-1 管理者の責任とリーダーシップ

		第三者評価結果
Ⅱ-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。		
10	Ⅱ-1-(1)-① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>所長である自らの役割に加え、職員の職務の内容についても文章化されている。その中には所長不在時の対応も含まれており、不在時には、副所長に一任し、連絡・報告が確実に実施されるよう指導している。また、所長は今年の子どもの活動テーマ「げんきいっぱい、にこにこスマイル」が子どものみならず、『働く職員や保護者、関係してくださる皆さまにとっても活動テーマになって欲しい』との想いを様々な行事などで伝えるよう努</p>		

めている。		
11	Ⅱ-1-(1)-② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>所長会議などにおいて、富山市より指導を受け、遵守すべき法令等については各種会議や申し送りなどで全職員への周知と徹底を図っている。また、マニュアルに基づいて児童福祉法・児童虐待防止法・個人情報保護法遵守について取り組んでいる。所長及び副所長については、自主研修に参加し「環境を通した保育」を法令について学び知識を深めた。昨今様々な問題が発生していることも鑑みて、コンプライアンスに対しては職員全員により具体的な事例などに基づいて学べる機会などが提供されることを期待したい。</p>		
Ⅱ-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。		
12	Ⅱ-1-(2)-① 保育の質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>所長は、実施した自己評価結果を集計し、その結果についてミーティングや会議等を通して話し合い、保育課題を明確にして改善に向けて取り組んでいる。今年度は、取り組み状況をボードや所定の計画表に記載したり、付箋で貼り出していくことで取り組み内容を「見える化」し、全ての職員が把握出来るよう視覚情報としての環境を整え、保育の質の向上に努めている。</p>		
13	Ⅱ-1-(2)-② 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>公営管理体制のため、経営状況や財務分析については保育所単位では行われていない。業務の実行性を高めるために、大きな行事などの際は具体的な業務内容を記載したスケジュール表を作成し、各々の仕事を可視化し、進捗状況を共有することで必要なサポートが迅速に行える協力体制の構築及び実践に努めている。</p>		

Ⅱ-2 福祉人材の確保・育成

		第三者評価結果
Ⅱ-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		
14	Ⅱ-2-(1)-① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>富山市で推進している「シニア保育サポーター」の登録の呼びかけを積極的に行っている。富山市へ取組み状況や見通しを定期的に報告し、連携しながら適切な人員配置及び育成と定着に努めている。任期付き採用やパート及び嘱託職員については、随時地域へも発信し職員からも知人などに呼びかけ、就労時間も柔軟に設定するなど適切な人材確保に努めている。正規職員の人材確保については、富山市が策定した「富山市子ども・子育て支援事業計画」に基づき、事業の見通しを立てながら職員の採用計画を決めている。また、</p>		

隣接した都道府県保育士養成校などへ直接呼びかけたり、今年度は富山大学の幼児教育を専攻している3・4年生の希望者を募り、富山市の公営・私営保育所が合同で意見交換を行う場を設けたりしている。		
15	Ⅱ-2-(1)-② 総合的な人事管理が行われている。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>富山市において、「人事異動調書・業績評価・勤務評定・自己申告書」などを定期的に実施し、保育目標のモニタリングを実施するなど客観性や公平性、透明性を持った人事管理を組織的に行っている。また、処遇においても昇任・昇格基準が明確にされ目標を持って就業する環境がある。職員には、「望まれる職員像」が明文化されている。</p>		
Ⅱ-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。		
16	Ⅱ-2-(2)-① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>所長は職員一人ひとりの心身の健康を意識して日々のコミュニケーションを大切に、ワーク・ライフ・バランスに配慮するよう努めている。保育士の人員確保も厳しい中でも、超過勤務状況を把握し、有給休暇を計画的に取得できるよう年次有給休暇使用計画書を活用して促進を図り、働きやすい職場づくりに努めている。また、富山市では、「働き方改革セルフチェックシート」に基づいた保育所自己評価を5月・10月に実施し、6～7月にかけてメンタルヘルスチェック、8月にはストレスチェックを職員に実施し、必要に応じ臨床心理士等に相談できる体制が構築されている。</p>		
Ⅱ-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。		
17	Ⅱ-2-(3)-① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>正規職員においては業績評価が年に2回実施され、その際、面談も行い業務自己評価と目標についての考え方や取り組み方について確認、把握するよう努めている。嘱託及び臨時職員についても面談を実施し、経験や就業状況に応じそれぞれがモチベーション向上を図れるような助言を心掛けている。</p>		
18	Ⅱ-2-(3)-② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>経営主体である富山市は、各保育所において自園研修への取り組みを奨励し年間計画を作成し、毎月テーマに基づいて実施されていることが記録からも伺える。年度初めには、経験年数や保育分野によって分類された外部研修内容が富山市担当課で計画され、教育及び研修の機会が職員に提供されている。そこには、研修計画の基本方針や具体的な目標等の明記はあるものの、今後はさらに資格等を含めた具体的なキャリアパス計画に基づく目標、そして職員の意向を踏まえた教育や研修機会を提案し、積極的な参加を奨励する取り組みをさらに期待したい。</p>		

19	Ⅱ-2-(3)-③ 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>職員の意向や経験を反映させながら研修計画にある研修への受講者を決定し、参加する機会を設けている。また、幼稚園免許更新や取得は、職員間で協力しながら時間を確保したり、その他研修案内は随時回覧し希望があれば参加を申し出ることができる。研修等参加後は、報告書と資料を提出することとし、全職員に回覧しており、共有すべき情報や知識は、小グループ会議において報告し活用に繋げている。保育に関わるニーズが多様化している中で、職員は一定期間の就労年数で異動が行われる環境にあるが、今後は職員毎の研修履歴等を管理され、成果の評価や分析を行い、それらにもとづいて全体のキャリア構成と連動していく研修体制の再構築に期待したい。</p>		
Ⅱ-2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。		
20	Ⅱ-2-(4)-① 実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>富山市が作成している実習生受け入れマニュアル及び年間実習計画に沿って、副所長が窓口となり対応にあたっている。看護専門学生、保育士・幼稚園教諭養成課程を履修している学生、中学生と幅広く対応しており、マニュアルに基づいて保育の特徴や注意事項、持ち物などを記載したシートを活用している。実習等の受け入れについては、事前にお便りやお知らせボードを活用し、子どもや保護者へ周知するよう努めている。今年度は富山市が講師を招き、実習生受け入れに関する実務的な研修を担当窓口となる職員に対し実施しており、実習生の所属機関での保育オリエンテーションを行う出前講座も開催した。また、人材の確保へ繋げるため、インターンシップの学生受け入れも積極的に協力するよう配慮している。</p>		

Ⅱ-3 運営の透明性の確保

		第三者評価結果
Ⅱ-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		
21	Ⅱ-3-(1)-① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>保育所基本方針や事業所基本情報はホームページに掲載している。年度毎に方針や目標の見直しが行われており、それらの情報は速やかにホームページ上でも修正されることが望ましい。また、保護者には総会等の機会に第三者評価受審について説明し、地域へは教育後援会の会報を通じて、保育の活動を発信している。財務状況については、公営であることから、富山市が手がける全事業については予算及び決算報告がなされているが、保育所単位での情報公表は現実的に行われていない。富山市はホームページに受審が終わった第三者評価結果を掲載し、広く情報の提供を図っている。</p>		

22	II-3-(1)-② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a・ ③ ・c
<p><コメント></p> <p>保育所現場で必要な備品及び消耗品などを購入するための予算が、4月に富山市より配分されている。それらの扱いについては、職員会議などで要望や意向を確認しながら、収支計画を作成し、マニュアルに基づき適正な出納管理が行われているか確認している。予算執行状況については、定期的に富山市が監査を実施している。</p>		

II-4 地域との交流、地域貢献

		第三者評価結果
II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。		
23	II-4-(1)-① 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a・ ③ ・c
<p><コメント></p> <p>保育指針に基づき作成されている、「全体的な計画」「令和元年事業計画」の中で地域との連携及び交流について明記されている。地域行事への参加については必ず保護者に対し参加の可否を確認した上で、社会福祉協議会や教育後援会、自治振興会と連携・協力し、地域住民、団体、関係機関との関係が継続でき、地域ぐるみで子どもを育てようとする活動を進めている。今後も子どもの地域への社会参加の機会が確保され、社会性が育まれることに期待したい。</p>		
24	II-4-(1)-② ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a・ ③ ・c
<p><コメント></p> <p>『シニア保育サポーター事業』を推進している。目的は、保育環境の整備や諸行事における準備等、保育所の業務を補助し、保育環境の向上を図ること、また、世代間交流の機会を作ることである。子どもたちにとって地域の方たちに親しみを抱き、思いやりの心を育むことにつながり、高齢者の皆さんにとっても生きがいづくりの機会や社会活動を継続することにつながっている。ボランティア活動内容についても年間計画が作成され、それに基づいて実施されている。</p>		
II-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。		
25	II-4-(2)-① 保育所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a・ ③ ・c
<p><コメント></p> <p>富山市担当課所属の看護師やこども支援センターの保育所等訪問支援事業などを定期的に利用し、個別配慮が必要な子どもの支援指導や保育士などが相談できる機会を確保している。また、教育機関・病院・児童相談所等のリストを作成し、普段から相互で情報提供に努め必要に応じて連絡・調整が図れるような関係性の構築に努めている。</p>		
II-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。		
26	II-4-(3)-① 保育所が有する機能を地域に還元している。	a・ ③ ・c

<p><コメント></p> <p>地域との交流活動やボランティア活動の受け入れの様子は、写真付きの活動記録から知ることができ、子育て支援事業の中では、年に30回親子サークルを提供している。浸水災害時など近隣住民の一時避難場所に指定されているという認識はあるが、これまで地域との連携の実績はなく、早急に地域の消防機関などから必要な情報や指導を求め、職員ともその際の対応や処置などについて話し合い、マニュアル化する対策が望まれる。また、日頃から地域住民との避難などを想定した訓練や災害に関する知識の提供など、地域の生活課題の解決や住民の主体的な活動を促進・支援するなどの取り組みに期待したい。</p>		
27	Ⅱ-4-(3)-② 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	a・ ③ ・c
<p><コメント></p> <p>地域からのニーズに応じて、地域行事への参加は毎年継続して行われている。今年度は、月岡中学校1年生を対象とした「13歳のスタート」講座に講師協力を実施した。今後も地域に潜在している福祉（保育）ニーズの把握に努め、保育所発信の地域向け講座等を企画・実施し、保育所や子ども、職員が持ち合わせる機能や専門性を地域の実状に合わせて積極的に還元し、福祉課題の把握・解決に向けて公益性を有する組織として、地域福祉向上の一助となることに更に期待したい。</p>		

評価対象Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス

		第三者評価結果
Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。		
28	Ⅲ-1-(1)-① 子どもを尊重した保育について共通の理解をもつための取組を行っている。	a・ ③ ・c
<p><コメント></p> <p>職員で「人権擁護のためのチェックリスト」を実施し、全体の集計はされていないが職員が個人で自分の関わりや態度などを振り返り改善している。また、倫理綱領を職員で読み返し、子どもに対する対応を再確認し、子どもの人権を尊重する点なども話し合っている。運動会でのリレー競技では、クラス対抗で力の差が出すぎ、足の遅い子を責めるなどの行為が見られたことから職員で綿密に話し合った。子どもたち自身がチームを作るように援助し実践したところ、遅い子に対して応援するなどの光景が見られ、楽しいリレー競技になった。単なるリレー競技として終わらせないように、職員で協議を重ね、子どもたちが楽しく参加でき、いい思い出となるような競技になったことは、子どもたち一人ひとりを尊重し大切にしている職員間の意思の表れであることが伺える。</p>		
29	Ⅲ-1-(1)-② 子どものプライバシー保護に配慮した保育が行われている。	a・ ③ ・c
<p><コメント></p> <p>子どものプライバシー保護についてのマニュアルを全職員で見直し、再確認している。ま</p>		

<p>た、虐待を疑われる事例が3件ほどあり、関連機関と連携しながら見守っている。個人情報 は、新聞・地域への掲載について、その都度保護者に確認をしており、承諾書をもらっ ている。トイレは、広くて使いやすい反面、入り口が広く子どものプライバシーが気になるた め、今後は見えないよう目隠しカーテンを取り付ける等の工夫に期待したい。</p>		
<p>Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。</p>		
30	Ⅲ-1-(2)-① 利用希望者に対して保育所選択に必要な情報を積極的 に提供している。	a・ ① ・c
<p><コメント> 保育理念、保育方針、保育目標、テーマが玄関の目に付く場所に掲示してあり、手に取り見 やすいように工夫され、運営規定や中長期計画・単年度計画などが設置されている。 また、保育所見学は、随時受け付け対応しており、見学者説明書を用いて当保育所や他の保 育所のサービスについても伝えている。</p>		
31	Ⅲ-1-(2)-② 保育の開始・変更にあたり保護者等にわかりやすく説 明している。	a・ ① ・c
<p><コメント> 保護者には、重要事項説明書や保育のしおりを使用し説明をしており、保護者の意向を大切 にしながらか理解できるように丁寧に伝えている。 一人ひとりの保育変更は、担当課からの支給認定書を渡し、口頭にて説明を行っており、特 に配慮が必要な保護者においては、担当課と密に連絡を取り情報共有し、対応している。</p>		
32	Ⅲ-1-(2)-③ 保育所等の変更にあたり保育の継続性に配慮した対応 を行っている。	a・ ① ・c
<p><コメント> 転所先に、配慮事項や必要な書類（同意書、児童票控え、予防接種暦、罹患歴調査票）等を送 付している。8月には、小学生を招待し、同窓会を行っている。また、修了児の保護者には、 随時相談を受けることを口頭で伝えてあり、体制も整えている。今後は保育修了時に、相談 の窓口・体制等を説明し、継続の配慮を文書にて渡すなど、細やかな対応に期待したい。</p>		
<p>Ⅲ-1-(3) 利用者満足の上昇に努めている。</p>		
33	Ⅲ-1-(3)-① 利用者満足の上昇を目的とする仕組みを整備し、取組 を行っている。	a・ ① ・c
<p><コメント> 保護者アンケートや連絡帳の記載内容、懇談会等から満足度を把握し少数意見にも耳を傾け るなど積極的に対応している姿勢が伺える。 利用者満足に関するアンケートを年1回実施しているが、担当者を設置し、詳しい分析や検 討を行い、より満足度が上がるような体制の構築を期待したい。</p>		
<p>Ⅲ-1-(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。</p>		
34	Ⅲ-1-(4)-① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能してい る。	a・ ① ・c
<p><コメント> 苦情解決の体制は整っており、保護者アンケート・行事アンケート等で意見や苦情を受け入 れるように努力している。現在の意見箱の設置場所が事務室前で、近すぎて入れにくいとい</p>		

う難点があり、設置場所の変更と工夫に期待したい。		
35	Ⅲ-1-(4)-② 保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。	a・ ⑥ ・c
<p><コメント></p> <p>保育所からは意見箱、保護者会からは目安箱が設置されており、多方面からの意見収集の努力が見られる。保護者からのアンケート結果からも保育所に意見が述べやすいなど好意的な意見が多数あり、意見箱だけではなく連絡帳や行事のアンケートに「気づいたこと・気になることなど何でも言ってください」と書いてあり安心できるとの声も上がっている。相談においては、相談表があり保護者の希望に沿った日にち・時間・場所・相談者を決めて対応している。</p>		
36	Ⅲ-1-(4)-③ 保護者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a・ ⑥ ・c
<p><コメント></p> <p>保護者アンケートや連絡帳・送迎時での会話等から相談、意見を汲み取るようにしている。子どもの成長や発達等についての相談が多く、ケース会議・事例会議にあげ、職員が共通理解を図り、対応や改善をしている。保護者からの意見や相談は、保育の質を向上させるためにも改善課題を明らかにし、今後も迅速に対応していただきたい。</p>		
Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。		
37	Ⅲ-1-(5)-① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a・ ⑥ ・c
<p><コメント></p> <p>自園研修の一環としてリスクマネジメントを実施し、ヒヤリハットマップ・散歩マップの作成をしている。散歩マップは、保護者に協力を呼びかけ、気づいたことがあったら記入できるようになっている。ヒヤリハットは、ケガが発生した場所や遊びに対して色別にシールを貼り保育士が再発防止を意識して対応しており、またこれらを保護者にも公開し共有化を図っている。</p>		
38	Ⅲ-1-(5)-② 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a・ ⑥ ・c
<p><コメント></p> <p>「保育所における感染症対応ガイドライン」や「保健のしおり」等のマニュアルの確認を行い、職員で共通理解に努め、予防策や発生時の子どもの安全確保に取り組んでいる。また、おむつ交換の手順の見直しや、嘔吐処理マニュアルのシュミレーションも行っており、組織としての体制が整備されている。子どもたちの手洗いを重視し、しまじろうの手洗いカードを利用し楽しく手洗いできるように配慮している。また、発生状況は、玄関ボードに記載し、緊急性の高いものは別のボードが出され保護者に分かりやすく配慮している。</p>		
39	Ⅲ-1-(5)-③ 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	a・ ⑥ ・c
<p><コメント></p> <p>避難計画作成を通し、職員で災害を想定し、安全な避難方法や役割分担等を確認、見直しを</p>		

している。0、1歳児の30名を混乱なく避難させる方法が課題であり職員数や時間帯等も想定し訓練を行っている。避難時が悪天候の場合もあるという気づきから、雨や寒さをしのぐため短時間に被れるカッパを全児童の人数分用意している。また、消防署、警察との連携で自衛消防訓練、通報訓練も実施している。子どもの安全対策において、今後も災害発生時の体制を整備し、定期的な訓練から問題点を把握し、見直しを行い、地域との連携の構築も考慮されることに期待する。

Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保

		第三者評価結果
Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。		
40	Ⅲ-2-(1)-① 保育について標準的な実施方法が文書化され保育が提供されている。	a・ ⑥ ・c
<p><コメント></p> <p>富山市保育所保育のガイドラインがこども支援課から提供されており、当保育所にあったマニュアル・手順書を作成している。また要所にマニュアルや手順書を置き、共通化を図っている。しまじろうの手洗い方法は各クラスにあり、一定の内容で利用している。今後も子どもの個性を重視しながら一定の水準、内容を保った対応を全職員が理解し、実践していただきたい。</p>		
41	Ⅲ-2-(1)-② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a・ ⑥ ・c
<p><コメント></p> <p>各マニュアルを組織的に見直している。年間計画に記載されており定期的実施し、その都度見直しをしている。今後もPDCAサイクルによって質に関する検討を組織的に継続することに期待したい。</p>		
Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。		
42	Ⅲ-2-(2)-① アセスメントにもとづく指導計画を適切に策定している。	a・ ⑥ ・c
<p><コメント> 所長や副所長、担任、関係職員が中心に子どものアセスメントに基づく指導計画を作成している。児童票に保護者の意向も記載され、一人ひとりの発達段階に応じた目標を立て指導計画の作成を行い、保育経過記録を記載している。また、支援困難ケースへの対応は、担当課の職員、看護師に相談し課題を分析し、総合的に判断して保育を実施している。今後もアセスメントからの計画作成、実施、評価、見直しといった一連のプロセスが適切に行われるように期待したい。</p>		
43	Ⅲ-2-(2)-② 定期的に指導計画の評価・見直しを行っている。	a・ ⑥ ・c
<p><コメント></p> <p>指導計画の評価・見直しは、担当者が月末に話し合い、見直しや反省を行い、次月に生かすようにしている。所長や副所長が記録手法等を指導し、変更内容や課題が分かるような記録方法をとっている。また、課題がどのように改善したかを話し合い、保育の質の向上に努めており、保育の変更は、職員室のボードに記載し、共有化・周知している。</p>		

Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。		
44	Ⅲ-2-(3)-① 子どもに関する保育の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a・ ① ・c
<p><コメント></p> <p>個別の指導計画は、薄冊を作り健康面や保護者との対応などを綴り、入所時からの経過が分かるようにしており、共有化もされている。</p> <p>記録は、副所長が確認するとともに職員間で差異が出ないように書き方、内容について課題等を検討し指導を行っている。</p>		
45	Ⅲ-2-(3)-② 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a・ ① ・c
<p><コメント></p> <p>富山市で決められた規定があり保管や取り扱い等に十分注意し、職員で周知している。また、保育所で知り得た情報は、口外しないように周知するとともに定期的に話し合っている。連絡帳の記入は事務室で行い、他の保護者に見られないように、また降所時、入れ間違ふことのないように十分に配慮している。情報開示においては、富山市で基本姿勢等のルールや規定が定められている。</p>		

A-1 保育内容

		第三者評価結果
A-1-(1) 保育課程の編成		
A①	A-1-(1)-① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	a・ ① ・c
<p><コメント></p> <p>全体的な計画書（保育課程）は、保育所の理念や方法、目標に基づき、保育所職員で検討し作成している。富山市の副所長会で検討した計画書を基に、昨年度の保育課程の評価・反省を生かして、月岡保育所独自の計画書を編成している。</p>		
A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開		
A②	A-1-(2)-① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a・ ① ・c
<p><コメント></p> <p>玄関に子どもたちと共同で制作した今年のテーマや、写真入り職員紹介ボードが掲げられ温かい雰囲気を感じる。各保育室に温度計、湿度計、エアコン、加湿空気清浄器を設置し、心地よく過ごせるようにしている。トイレには衛生管理チェック表があり、衛生・安全面に配慮している。梅雨時期などには匂いが気になることがあるため、仕切りやカーテンなどの工夫を期待したい。以上児用トイレには、シャワーが設置してあり、熱帯魚や小動物、廊下のスペースを利用した絵本の読み聞かせコーナーなど、少人数で落ち着ける場所も設定している。内履きの着脱で利用しやすい場所の改善や食事時の空間を広くとる机の配置など、今後も子どもの動線を視野に入れ、心地よく生活できる環境づくりの工夫に期待したい。</p>		

A③	A-1-(2)-② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a・ ③ ・c
<p><コメント></p> <p>子どもへの話しかけが明るく穏やかである。特に、言葉での表現が不十分な低年齢児には、ふれあいながらゆったりと話しかけ、「～したかったんだね。」と、気持ちを受け入れるような接し方を心がけている。また、家庭環境や成育歴を踏まえ、一人ひとりの子どもの個人差を把握し、職員間で子どもの育ちなどを情報共有している。保育士自身が否定的な声かけをしていないか、職員間で振り返りを行い、子どもとの関わりに活かしている姿勢を今後も大切に持ち続けていただきたい。</p>		
A④	A-1-(2)-③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a・ ④ ・c
<p><コメント></p> <p>各保育室やトイレの手洗い場には、分かりやすいイラスト入りの手順書を掲示している。遊びのコーナーには玩具の写真入りマークやケースを設置し、片付けしやすいように工夫しており、低年齢児クラスの靴箱のすぐ近くに仕切りのある小箱を設置し、脱いだ靴下を自主的に出し入れできるように工夫している。今後も子どもの発達に合わせた絵カードやツールなど環境の整備や援助などをより工夫し、子どもたちが自主的に生活習慣を身につけていくことに期待したい。</p>		
A⑤	A-1-(2)-④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a・ ⑤ ・c
<p><コメント></p> <p>各年齢の発達や興味に応じた遊びを、自由に選択して活動できる場と時間を確保できるよう工夫している。特に園庭が狭い為、散歩や近くの公園へ出かけ、体を十分に動かして遊べるよう配慮している。また、地域の方々と交流する機会（枝豆、さつま芋の苗植えや収穫、校下三世代ふれあい餅つき会等）を設けている。今後も日常の子どもの経験や興味、発達に目を向け、主体的に活動できるより豊かな環境作りを工夫していくことに期待したい。</p>		
A⑥	A-1-(2)-⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a・ ⑥ ・c
<p><コメント></p> <p>0歳児は、1歳児と同室で過ごしている。保育室内のスペースを区切ったり活動を分けたりして、0歳児が、少人数でゆったりと過ごすことができるようにしている。応答的な関わりに心がけ、一人ひとりの成長に応じた手作り玩具を工夫するなど、課題意識を持って関わっている。</p>		
A⑦	A-1-(2)-⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a・ ⑦ ・c
<p><コメント></p> <p>2歳児は単独クラス、1歳児は0歳児との異年齢クラス編成となっている。低年齢児保育</p>		

<p>をする中で、探索活動とは何かについて職員間で話し合っており、その中でコーナー作り、手作り玩具、遊具棚の使い方の3項目に重点を置き、保育室内の環境改善を行っている。今後も養護と教育が一体的に展開される環境作りにさらに期待したい。</p>			
A⑧	A-1-(2)-⑦	<p>3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a・ ⑧ ・c
<p><コメント> 異年齢（3・4・5歳児）3クラス編成の中、保育士間で連携をとりながら保育を行っている。運動会のリレーにおいて、年齢の発達を考慮した保育計画を立案し、子どもたちによるチーム作りの話し合いの場を設け実践している（記録あり）。また、行事の取り組みや日頃の遊びの様子を、写真で掲示し保護者に伝えている。今後も子どもたちが自主的・意欲的に取り組んでいる姿を、保護者へ大いに発信し、保育の見える化をより工夫していくことに期待したい。</p>			
A⑨	A-1-(2)-⑧	<p>障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a・ ⑨ ・c
<p><コメント> 個別に配慮を要する児童が数名おり、定期的に個別計画を作成し、記録をとり、専門機関のアドバイスや研修報告で情報共有を図りながら保育を行っている。また、重症心身障害児が共に生活している為、県リハビリテーション病院での療育の様子を見学し、専門家からのアドバイスを基に支援方法を模索したり試したりしている。保護者からの申し出により、相談機関からの案内を提示し、必要に応じて紹介したり繋いだりもしている。</p>			
A⑩	A-1-(2)-⑨	<p>長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a・ ⑩ ・c
<p><コメント> 子どもたちがゆったりと過ごせるよう、一人でじっくり遊べるパズルや数人で遊べるすごろくなど、玩具の充実を図っている。延長担当保育士へは、各クラスの伝達ノートを活用し、引継ぎを行っている。</p>			
A⑪	A-1-(2)-⑩	<p>小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。</p>	a・ ⑪ ・c
<p><コメント> 単年度計画の事業年間計画の中に小学校との情報交換会や幼・保・小連絡会の計画を記載している。小学校教頭が来所し、保育所での子どもの様子を見学し意見交換もを行っている。小学生との交流会や一年生との集いの行事を計画し、子どもが小学校での生活に期待を持てるようにしており、小学校給食に使用している食器で年長児が給食を食べる経験をしたことを保護者にも紹介している。今後も子どもや保護者の小学校に対する不安やニーズを汲み取り、小学校と連携を図りながら、より見通しを持って生活できるような関わりを期待したい。</p>			
<p>A-1-(3) 健康管理</p>			

A⑫	A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。	a・ ⑬ ・c
<p><コメント></p> <p>保健年間計画を立て、月のねらいを各クラスに掲示し、子どもたちにも知らせている。家庭より体調不良の連絡を受けた時は、伝達ノートを利用し職員間で情報共有している。また、日中の健康状態を丁寧に観察し、小さなすり傷でも状況を保護者に伝え、安心感につながっている。玄関に保健コーナーを設け、感染症情報等を保護者に周知している。</p>		
A⑬	A-1-(3)-② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a・ ⑬ ・c
<p><コメント></p> <p>健康診断（内科健診・歯科健診・視力検査）結果については、集計したものを職員間で閲覧し周知している。保護者には連絡帳で伝え、必要に応じて個別に医者を受診を勧めている。</p>		
A⑭	A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a・ ⑬ ・c
<p><コメント></p> <p>食物アレルギー疾患児が数名いるため、生活管理指導表に基づき除去食や代替食を提供しており、誤食を防ぐ為三回チェックで確認している。また、アレルギーチェック表（一週間ごと）があり、毎朝のミーティングで職員で周知し、保護者にも渡している。定期的に保護者や保育士、調理員との三者面談を行い、メニューの内容や喫食状況などを意見交換している。アレルギー疾患児には専用のトレーや食器、名前プレート等を使用しており、他の子どもたちにも紙芝居を見せたりして、アレルギーについての理解が得られるようにしている。アレルギー研修に参加し新しい知識を得て生かしている。</p>		
A-1-(4) 食事		
A⑮	A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a・ ⑬ ・c
<p><コメント></p> <p>市の給食指導計画に基づき食育計画を立て、調理員と連携を図りながら取り組んでいる。3歳以上児はバイキング形式を取り入れており、一人分の分量の目安がわかるようにサンプルを出し、無理なく食べられるように工夫している。また、育てた野菜を収穫し食べたり、食材を三色ボードに分けたり、ハートや星形に切ったりして食事に興味や関心を持てるようにしている。給食参加で調理の工夫・味つけ・コツなどを保護者に知らせており、食育コーナーを設置し、給食のレシピや食材などを自由に見られるように工夫している。</p>		
A⑯	A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a・ ⑬ ・c
<p><コメント></p> <p>調理員も子どもと一緒に食事をし食べる様子を見る中で、好き嫌いや喫食状況を把握し、味付けなど調理の振り返りを行っている。行事食（七夕・クリスマス・ひな祭り等）を取り入れ、季節を感じながら行事を楽しめるようにしており、年間24回、家族のふれあい</p>		

給食参加も行っている。また、今年度の食育テーマを「世界の味めぐり」とし、様々な国の食に触れる機会を持っている。ロシア料理のボルシチのメニューを紹介した時には、ロシア国籍の保護者が実物のビーツ（野菜）を見せてくださり、より関心が深まった。衛生管理マニュアルに基づき項目をチェックし記録をとり、食中毒が起らないよう安心安全に気をつけている。

A-2 子育て支援

		第三者評価結果
A-2-(1) 家庭との緊密な連携		
A⑰	A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>保護者との日常的な情報交換は、連絡帳や送迎時の会話のやりとり、ホワイトボード等を活用しながら行っており、その日の子どものエピソードなどをこまめに知らせ、信頼関係の向上に努めている。個別懇談会や給食参加など、保護者と直接関わる機会を設けたり、クラスだよりで子どもの様子を伝えたりしている。</p>		
A-2-(2) 保護者等の支援		
A⑱	A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>日々の送迎の際に子どもの様子を常に笑顔で話したり、連絡帳で伝え合い信頼関係を築くようにしている。また、個別懇談会の希望をとり、時間帯は保護者の都合に合わせて決め、不都合が生じた場合は別日を設ける等の対応をしており、相談内容は、児童票に記録し、継続した支援ができるようにしている。保護者からの相談については、担任だけでなく所長・副所長など他の職員の助言も受けながら、園全体で支援していくようにしている。</p>		
A⑲	A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>毎月の身体計測や日々の健康観察の中で、子どもの心身の状態について把握に努めている。子どもの身体や表情等に異常を感じた場合は、速やかに所長に報告し、マニュアルに即して対応に当たっている。要保護ケースについては子ども育成健康課と連携をとり、情報の共有に努めている。所長、副所長が「児童虐待対応研修」や「要保護児童対策のための研修会」等に参加し、他の職員に周知している。</p>		

A-3 保育の質の向上

		第三者評価結果
A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）		
A⑳	A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努め	a・ b ・c

ている。

<コメント>

自己課題発見シート（10項目）を用いて自己評価し自分の保育の見直しを図り、さらに話し合いの場と時間を作り、疑問点や問題点を早期解決できるようにしている。（記録あり）保育計画（全体的な計画・年間計画・月週案・児童票）に基づいた実践を毎月評価反省・自己評価して保育の質の向上を図っている。また、自己課題発見シートで、自らの保育（専門性）を振り返り努力している。今後も自身の専門性や保育の改善に向けた実践を、さらに継続していくことに期待したい。